



作文2部

もんぢがくがくだいじんしょう
文部科学大臣賞

アメリカのお米の思い出

神奈川県大和市立中央林間小学校四年

橘川 由依

私は二才半のころ、父の仕事でアメリカに行き、そこで七年間すごしてきました。

初めて小学校に行った日のことです。私はお弁当におにぎりを持っていきました。ところが、友だちに、おにぎりのりが黒いということだからかわれてしまいました。私はせっかく母が作ってくれたお弁当を悪く言われてきずきました。後でわかったことですがみんなにとって黒い色の食べ物は見なれなかったようです。

それ以来、私はサンドウィッチばかり持っていくようになりました。パンの味にはすっかりあきていましたが、からかわれるのがいやだったのです。

学年が上がるにつれて、私は何とか英語が話せるようになってきました。新しい友だちもふえて、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるようにもなりました。そして、お弁当におにぎりやおすしを持っていくようになりました。お弁当の中身がみんなとちがっていても、まったく気にならなくなってきたからです。それどころか、私はお米のおかげでちょっとした人気者になりました。

というのも、このころから、アメリカではけんこうを考え

る人がふえてきて、和食に人気が出てきたからです。

特におすしは大人気で、街には、おすし屋さんが一気にふえていきました。

友だちの間でもおすしは人気で、私がお弁当にのりまきやおにぎりを持っていくとみんながほしがりました。少し分けあげるととても喜ばれました。

おどろいたことに、私をからかっていた男の子が、いなりずしをほしいと言うので分けてあげるとすっかり気に入ってしまい、それ以来自分のお弁当をあげるよりまえに、私のお弁当の中身をかくにんしに来るようになりました。そのことを母に話すと、いなりずしを持っていく日には、いつも一つよ分に入れておいてくれるようになりました。

そんなわけで、時には私の弁当が少なくなることもあったけれど、みんながお米料理を好きになってくれたことが、とてもうれしかったです。

ランチタイムに改めてまわりをよく見てみると、チャーハンや、カレー、見たことのないようなパン、チーズが入ったクレープなどいろいろな国の食べ物があるのだなということに改めて気づきました。どれもそれぞれの国の大切な味で、そのことを理かいいないといけないのだなと思いました。

アメリカのお米は、短粒米といって、アメリカで生産されている粒の小さいお米です。正直いって日本のお米の方がずっとおいしく感じますが、七年もの間、私と私の家族の食生活をささえてくれたアメリカのお米の味を私はずっとわすれないと思っています。